

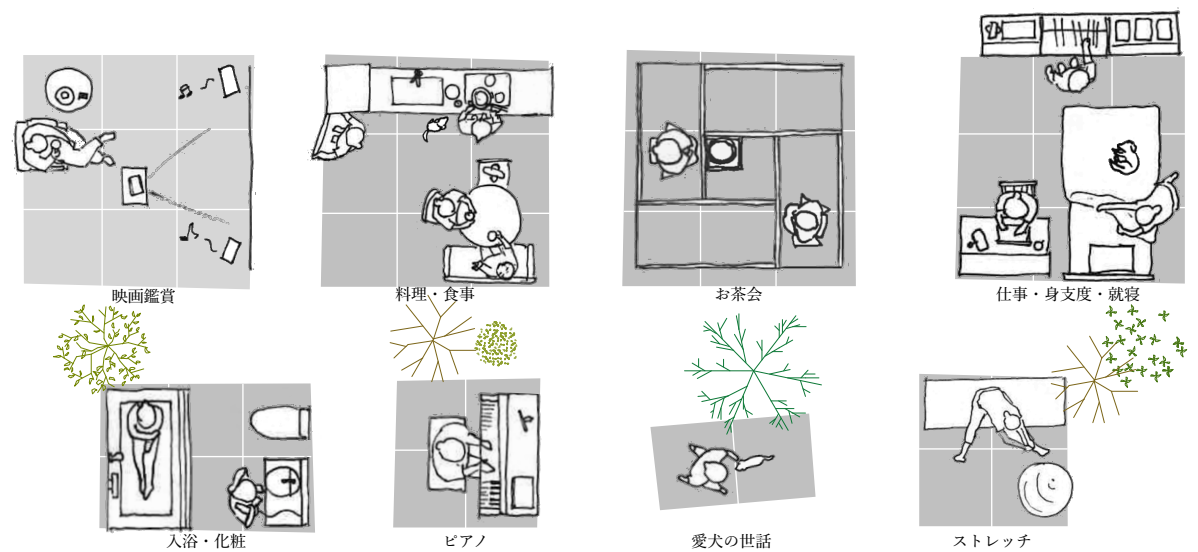


尾張旭の住まい

建設地は名古屋市中東部に位置する尾張旭市の閑静な住宅地である。敷地には約1.5mの高低差があり、三方を住宅に囲まれている。本計画は一人暮らしのための住まいである。施主は茶を好みピアノを奏で小さな庭に囲まれながら静かで豊かな時間を過ごすことを望んだ。そこで、外部に程よく開きながらもプライバシーを確保し趣味と日常が自然に溶け合う住空間を目指した。

空間は一人の身体感覚に寄り添うスケールを基本として構成し、それぞれに適度な余白を与えながら緩やかにつなげている。また、天井高さや複数の床レベルに変化を与えることで、低い玄関から高天井のリビング、半階上がったダイニング、さらに半階上の寝室へと連続する立体的な空間のグラデーションを生み出した。明快にゾーニングされた各空間は、吹抜けや連続する勾配天井によって視覚的につながり、適度な距離感と一体感を併せ持つ。ダイニングと寝室の間には吹抜けを介してブリッジを架け、より静と動の空間の差を創出している。

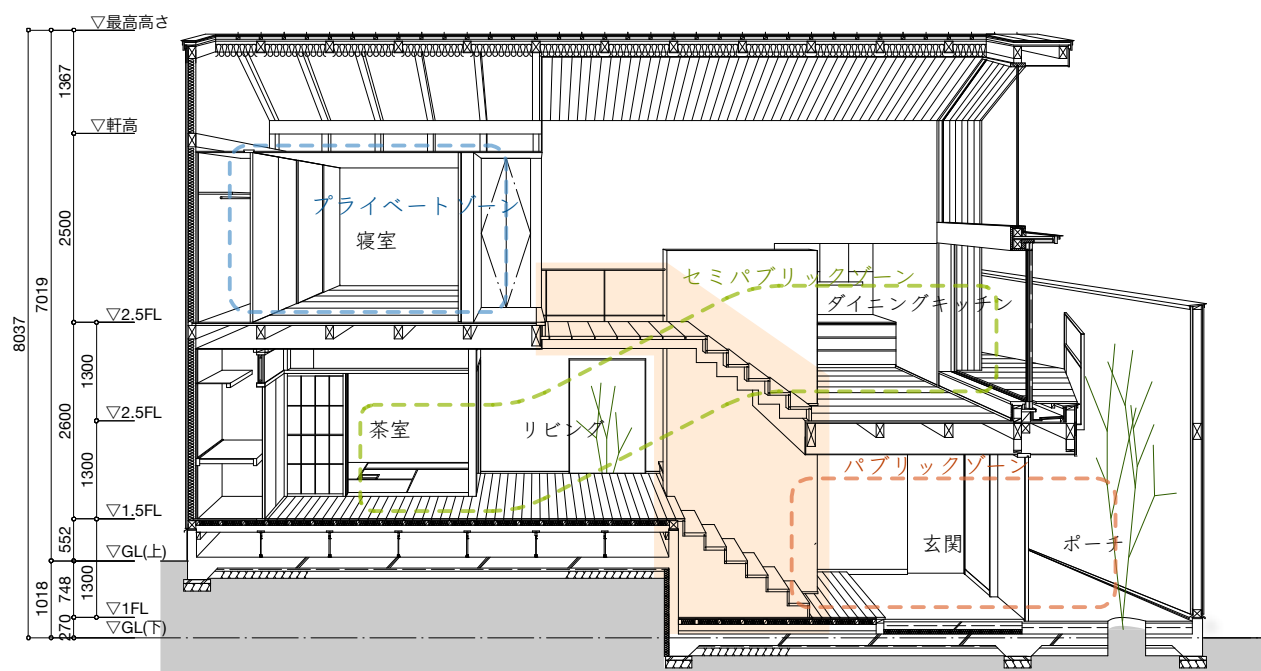
ファサードは、内部や小さなバルコニーで過ごす姿が直接見えないよう **着物の袖で顔を隠す所作**を想起させる壁を設けた。斜めに振られた壁は、茶の客人を迎え入れるための柔らかなアプローチでもある。**いくつかの小さな庭**を設け、光や風、緑、季節の変化を住空間に取り込みながら、趣味と日常が静かに重なり合う、一人のための豊かな居場所をつくり出した。



一人の身体感覚に寄り添うスケール ≡ 4.5帖+余白

人間工学に基づく一人暮らしに必要な最小単位空間は4.5帖程度が適していると考える。

そこにお気に入りの家具をしつらえたり小庭をつくるための余白空間をプラスし、生活に豊かさとゆとりを生み出す。



断面パース Sc=1:100

1300mmごとにフロアレベルをずらし天井高を操作することで、部屋の重心を落とした落ち着きのある空間と開放的で明るい空間ができる。空間の中央に配置された階段とブリッジは生活におけるパブリックゾーンとプライベートゾーンを行き来するための装置であり、どの場所からも視界に入るシンボルのような美しい佇まいを意識した。



中庭1からリビングを見る。ここは茶室の前庭でもあり、手水鉢が置かれている。



サニタリーは非日常感を味わいながらリラックスできる空間となっている。



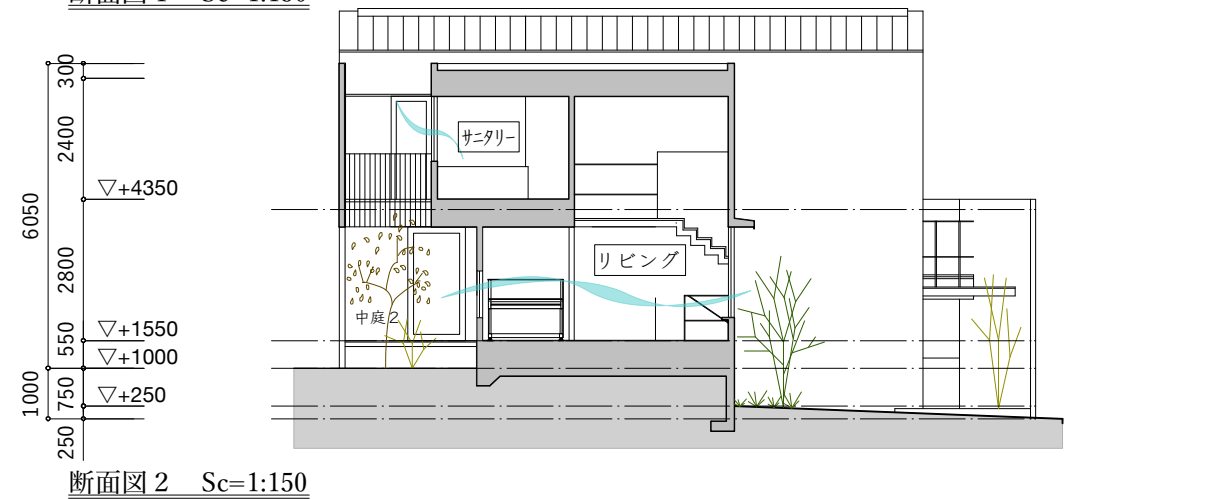
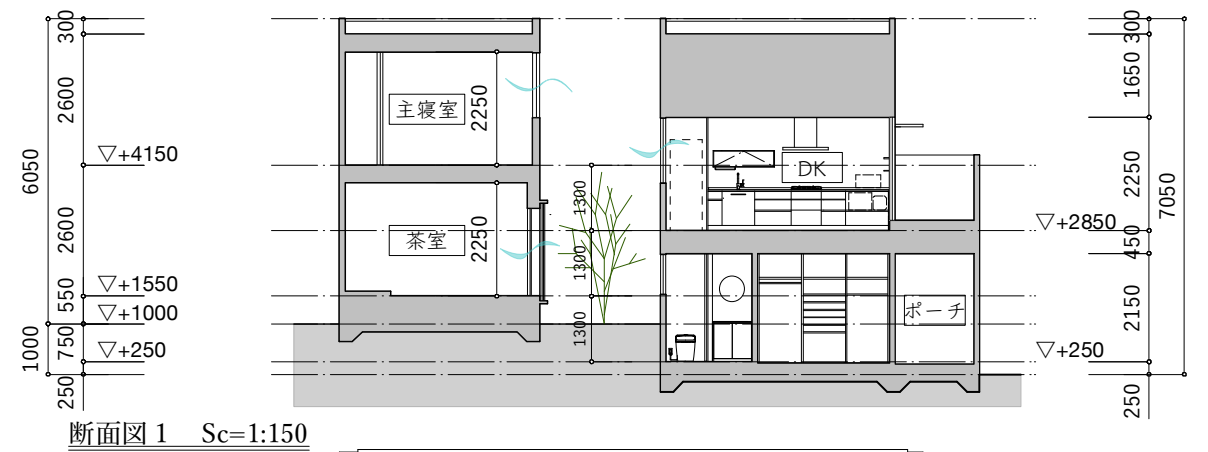
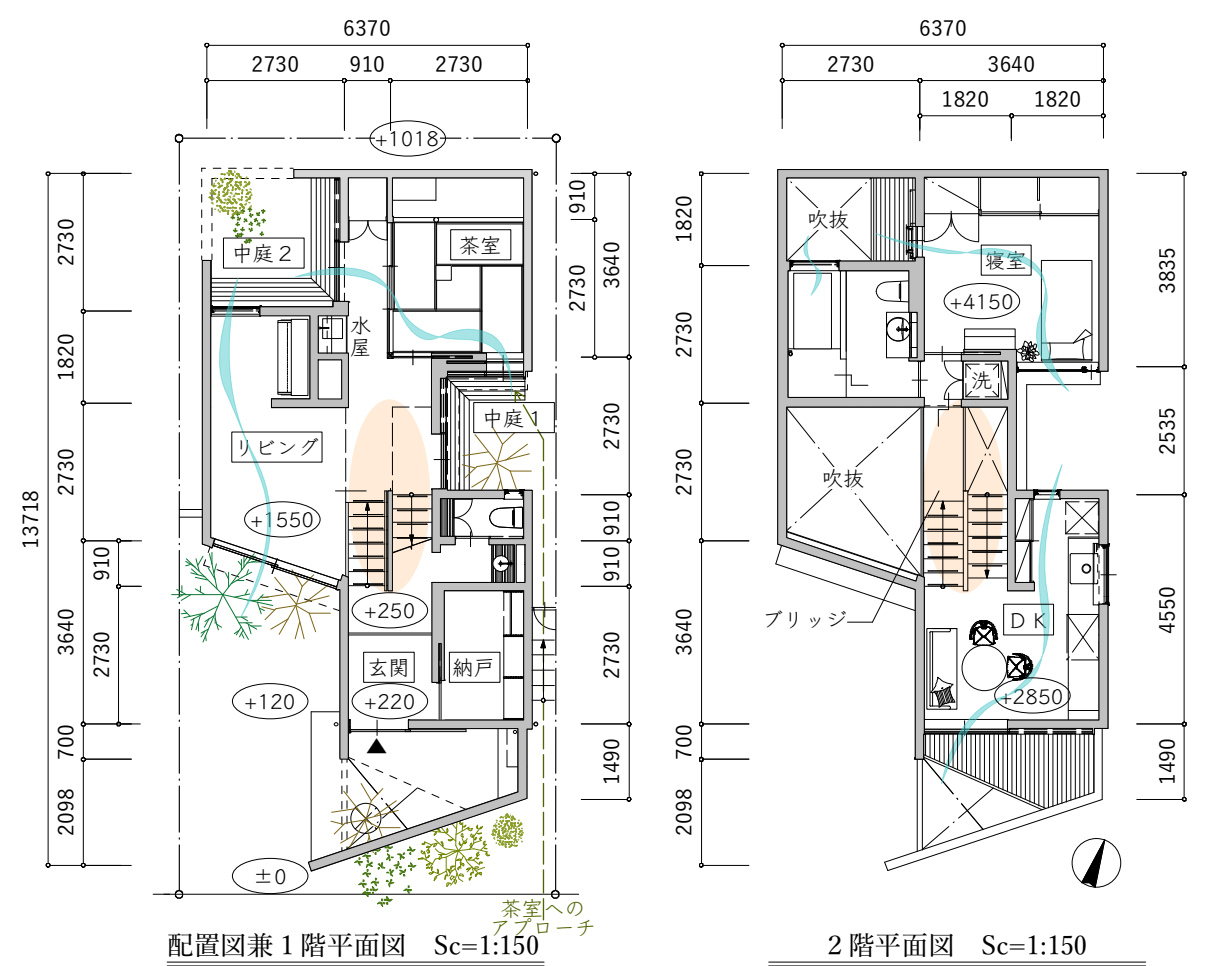
茶室から中庭1を見る。網戸・ガラス戸・障子が戸袋に引き込まれるようになっている。



茶室から中庭2を見る。北側の安定した明るさが室内へもたらされる。



道路面に対して斜めの壁の裏には玄関とバルコニーがあり、壁伝いに東側へ回ると茶室へと続く。建物の最高高さまで続く家型の形はそのまま室内へと連続している。



付近見取図 SC=1:1500

建物概要
所在地：愛知県尾張旭市
主要用途：専用住宅
建築面積：58.74㎡
延床面積：89.73㎡
敷地面積：112.12㎡
最高高さ：7.413m
構造規模：木造2階建
地域地区：第一種中高層住居専用地域